

## 郡市医師会長プロフィール

渡島医師会

### 大北 健雄 先生



平成17年3月26日開催の定時総会におきまして、渡島医師会の7代目会長に大北健雄先生が満場一致で選出されました。

先生は昭和20年生まれで、昭和46年3月北海道大学医学部を卒業され、昭和46年4月北海道大学医学部第三内科に入局、その後函館中央病院等の勤務を経て、昭和55年10月上磯町七重浜において、おおきた内科胃腸科医院を開業し現在に至っております。その間医師会活動にも熱心に取り組みされ、平成7年から渡島医師会理事、平成15年4月からは副会長として前医師会長の保坂 真先生の右腕として活躍されてきました。

また、渡島学校保健会会長や南渡島介護認定審

査会委員をはじめとする多くの役職につかれ、幅広く活躍されております。

先生に抱負をお聞きしましたところ、医師会活動は本来、医師の利益追求ではなく国民の健康を守るためのものでなければならぬし、地域の医療、保健、福祉づくりについても、地域住民の理解を深め、手を取り合っていかなければならない、と話されており深い感銘を受けております。

さらに先生は、会員に対する連絡網と地域住民への情報発信として、本年度の新規事業に医師会ホームページの開設を盛り込みましたので、今まで以上に幅広い活動が展開できるものと確信しております。

今、私達を取り巻く医療環境は大変厳しいものがありますが、どうぞ健康には十分留意され、たまには趣味としてのゴルフを楽しまれ、先生のお人柄と指導力で渡島医師会を引っ張っていただけるものと会員一同期待しております。

(渡島医師会副会長 小笠原 実)

室蘭市医師会

### 西里 弘二 先生



平成17年3月の室蘭市医師会総会にて、14年間の長きにわたり医師会を率いられてきた斉藤修弥会長が退任の意向を表明され、次期会長に西里副会長を推薦され、満場一致で西里先生が新会長に選出されました。

西里会長は昭和18年室蘭生まれの室蘭育ちで、昭和45年東北大学医学部を卒業され、市立室蘭病院で研修後、昭和48年東北大学第二内科教室にて

内分泌学を専攻、昭和54年市立函館病院勤務、昭和58年12月室蘭にて西里内科循環器医院を開業され、現在に至っております。

会務に関しては理事、副会長を16年間経験され精通されており、筋の通った意見をはっきり述べられる一方、いろいろな会員の立場を勘案し細かい配慮をしながら意見を述べられ、会員の信頼は厚いものがあります。

趣味は室蘭で始められたゴルフで、HD6で、昨年は室蘭ゴルフ倶楽部のシニアチャンピオンの栄冠を勝ち取られている実力者です。年間5~60回ラウンドする体力とチャンピオンを勝ち取る胆力、知力をもって新たな医師会運営を目指されることと期待しております。

(室蘭市医師会副会長 稲川 昭)

## 余市医師会

## 林 尚秀 先生



長躯の全身からゆったりとした雰囲気がかもし出されている。「大人の風格を備えた人」という表現がこれほどぴったりする人も少ない。

先生のご専門は精神科、お二人の息子さんも同じ医局の出身で、現在は息子に診療は全面的に任せ、ご自分は医師会に専念できる恵まれた立場にあります。政府は財政再建を最重要課題に掲げて社会保障費の抑制に奔走中で、医療界にも多くの難しい問題が山積しております。余市医師会はこのたびの改選で大幅な役員の入替えがありました。林会長を中心に、この一新された陣営で難局に取り組むこととなります。

先生は、ライオンズクラブ、警察友の会をはじめ数々の要職にあり、広い人脈・交友に恵まれておりますし、常に奥様とご同伴で行動を共にするという屈指の愛妻家でもあります。

一方、大のビール党で、うまいもののためならどこにでも出掛ける美食家でもある先生ですが、『株の神様』といわれる邱永漢氏は45歳で糖尿病と診断され、東大出の糖尿病の権威の門を叩いたそうです。そこでご飯や砂糖を禁じ、低カロリーのものを食べるように勧められ、「あなたの65キロの体重を62キロまで減らしてご覧なさい」と忠告されました。だがQ先生には自分の考えがあって、その大家のとおりにはやらなかったそうです。食べ放題食べ、飲みたい放題飲んで30何年が経ったと述懐しております。林会長にもお考えがおりでしょうが、みなさんの願いは、「どうぞ自愛を」なんです。

(余市医師会顧問 田中一志)

## 小樽市医師会

## 城 守 先生



## 「謹厳にして実直」

新会長に就任した城守先生は札幌医大小児科出身、新任の津田副会長も同門なので、揃って小児科医というのは数多ある医師会でも稀なケースであろう。小児科医の不足が全国的にクローズアップされているこの時期、救急医療を含めてこの難局をどう凌ぐのか手腕が期待される。

理事として12年間、副会長として4年間の実績と貢献度は高く、立案から実行まで実に慎重で決して拙速にはやることがない。EBMをそのまま医師会活動にも応用しているかの感が深い。医業と医師会理事の傍ら小樽市教育委員長の重責を果たし、「適当に」とか「まあいいや」と言うのを聞いたことがなく、厚い信頼感と気遣いが目立つ。

新会長所信表明では、ともすればマンネリ化する医師会活動を常に活性化させたいと勤務医の積極的参加を呼びかけ、医の倫理を前面に押し出した地域医療部、医療安全部などの新設を提唱した。その取り組みの速さは超慎重派の新会長からは想像できず、ただならない意気込みを感じさせる。

夫唱婦随（逆かも）睦まじいカップルで音楽、絵画鑑賞などを楽しみ、ゴルフにも余暇を割いている。ラウンドに同伴するとルール上の質問が多く、ものごとを疎かにしない探究心、堅実性が顔を出してくる。新会長の面目躍如である。

会議や委員会に出席の際はいつも資料を詰め込んだ重い鞆を持ち歩く。城会長が手ぶらで出席するようになったらその時こそ大物会長ではないかと密かに考えているが、多分会長の性格から膨らんだ鞆は手放さないことでしょう。名前の通り小樽市医師会という城を守るにはまさにうってつけの新会長である。

(小樽市医師会副会長 高田義人)

## 自己紹介

宗谷医師会長

### 牧野 正直



平成17年4月総会で宗谷医師会会長に新しく選ばれた牧野正直医師、出身は東京慈恵会医科大学小児科学教室。昭和49年2月父直孝医師が協会病院院長を経て開業、自身も中学2年まで過ごした稚内で小児科を開業。現在は宗谷管内唯一の小児科の開業医として活躍している。学校医、幼稚園、保育所の健診、1歳半・3歳児の健診、予防

接種の立合い等をこなし、6月は月曜から金曜の22日間の診療日で昼休みは2日しかとれず少々悲鳴をあげている。他に年に2回の母子講演会、FM稚内（ワッピー）で6年前から毎週金曜日“ピッピとマッキの小児科サロン”を放送している。

趣味はテニス、ドライブ、1人旅、料理。テニスは昭和52年に稚内テニス協会をつくり現在は会長、今も現役のプレーヤーとして大会に出場している。ロータリー歴も長く会長を経験して今年は国際奉仕委員長。

医師として常に患者さんの目線まで下っての優しい医療、小児科医としては子供が遊び感覚で受診できる楽しい雰囲気づくりを心がけている。

釧路市医師会

### 西池 彰 先生



阿寒国立公園、釧路湿原国立公園を背後に抱き、霧の街釧路の医会に、才能豊かな新会長が誕生した。

西池 彰会長は、「郡市医師会活動の強化と良質で安全な医療提供体制の確立」を医師会運営の基本とし、強力なリーダーシップで時局多難なこの現状を乗り切る決意を語られた。

先生は昭和9年、美唄市で誕生。この地で高校までを過ごし、昭和30年北大医学部に入学。卒業後北大整形外科医局に入局し、昭和41年釧路赤十字病院整形外科部長として釧路に赴任された。釧路を愛し、程なく現在地で西池整形外科医院を開業された。以来、門前市をなすご盛業である。

ご家族は、ソロプチミストの役員や社会奉仕活動に尽力されている詔江令夫さんと、三人のお子様

はすべて医学の道に進まれ自立され、後顧の憂いなく日々を過ごしておられる。

先生は医療のみならず、多くの芸術的分野でその才能を発揮され、声楽においては、釧路男性合唱団団員、釧路混声合唱団コールフロイデの団長として活躍。書道は全書芸師範であり、フルート演奏はプロを凌駕するもので、リサイタルを開催されている。また、能は宝生流を嗜み、医師会の新年会でご披露された。

医師会活動は、昭和62年理事に就任以来、理事歴5期10年。副会長4期8年を勤められた。この間、市民の安全を守る救急医療を中心に活躍され、東方沖大地震や釧路空港でのセスナ機墜落事故などの経験を踏まえ、行政を交えて救急医療体制の構築に尽力された。また、去年は北海道有床診療所連絡協議会会長として活躍された。

バランス感覚に優れ、探究心旺盛な西池会長が新会長に就任されたことは、正に時を得たものであり、我々にとっても全幅の信頼をもって協力していくことを決意した所以である。

(釧路市医師会理事 足立功一)

北海道大学医師会

## 宮坂 和男 先生



北海道大学医師会会長として、宮坂和男先生のプロフィールをご紹介します。

先生は、昭和44年に北海道大学医学部を卒業し、脳神経外科を研修した後、昭和47年に放射線医学を専攻するため、放射線科に所属しました。神経放射線学を専門とし、脳と脊髄の画像診断に造詣が深い先生です。平成4年から北海道大学医学部放射線医学講座、そして平成11年より大学院医学研究科病態治療学専攻病態情報学講座放射線医学分野の教授を担当しております。大学病院を

取り巻く医療環境の厳しい最中、平成17年4月1日より北海道大学病院長に就任しました。

日本医学放射線学会理事、日本磁気共鳴医学会理事・会長、日本神経放射線学会運営委員長等を歴任すると共に、国際誌であるNeuroradiologyやRadiation Medicineの編集委員をつとめ、国内外の放射線医学の指導的な立場にあります。昭和62年度から平成15年度に至るまで日本医師会生涯教育講座の講師を担当し、また、道内に遠隔画像診断システムを構築し、卒後教育研修ならびに地域医療を通して、北海道における医療の向上・発展に寄与しています。

先生は、学生時代は箏球部やスキー部に所属した体育会系人間ですが、同時にハワイアンバンドにも加わりギターやスチールギターを担当しました。趣味は、テニス、スキー、囲碁です。

(北海道医師会医報通信員 浅香正博)

## お知らせ

## 独立行政法人 福祉医療機構 －開業医継承支援事業のご案内－

## ◇医業経営・福利厚生部◇

独立行政法人 福祉医療機構（旧社会福祉・医療事業団）は、継続的な地域医療の確保に資するため、平成元年度から高齢等の事情により引退を考えているものの後継者がいない開業医（譲渡希望医）に開業希望医を紹介し、一般診療所の存続を支援する「開業医継承支援事業」を実施しております。

この事業は都市部を中心に行って参りましたが、平成11年4月から対象地域を全国に拡大し、現在に至っております。

なお、この事業を利用して譲渡希望医および開業希望医の紹介を受けようとする場合は、あらかじめ機構に登録しておく必要があり、当医

師会でもパンフレットを用意していますが、詳しくは独立行政法人 福祉医療機構企画指導部 経営指導課へお問い合わせください。

独立行政法人 福祉医療機構本部

〒105-8486 東京都港区虎ノ門4-3-13

秀和神谷町ビル9階

企画指導部 経営指導課

TEL：03-3438-9932

FAX：03-3438-0371

機構ホームページアドレス

<http://www.wam.go.jp/wam/>

E-mail：wam\_kikaku01@wam.go.jp